

新しい視点から切り取るグリム童話『赤ずきん』

岩田, 歩弓

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

異文化 / 異文化

(巻 / Volume)

13

(開始ページ / Start Page)

211

(終了ページ / End Page)

212

(発行年 / Year)

2012-04

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007863>

新しい視点から切り取る グリム童話『赤ずきん』

国際文化学科3年 山根ゼミ
岩田歩弓

私たちは旧東ドイツの映画スタジオ DEFA（ドイツ映画株式会社）が制作したグリム童話『赤ずきん』を鑑賞しました。

DEFA の『赤ずきん』はオオカミやウサギなどの動物を CG や人形ではなく人間が演じており、私たちも動物を自身で演じてみようと思いました。

それを元に、赤ずきんをアレンジして、昨年8月末に行った夏合宿を利用し、3、4年生合同で2グループに別れ、ゼミオリジナルの『赤ずきん』として二つの作品を撮影・制作しました。

一作品目のタイトルは『ももいろずきん』。

この作品はオオカミの視点で撮影したものです。

「赤」ずきんならぬ、「ももいろ」ずきんをどうにかして食べようとするオオカミだが、そう簡単にはうまくいかない。ストーリーはグリムの原作を踏襲しているものの、全く想像のつかないエンディングにし、インパクトのある作品に仕上げました。

二作品目のタイトルは『Dreamed Wolf』。

この作品はグリムのメルヘンらしさを重要視しました。

私たちが知っている「赤ずきん」では、オオカミが赤ずきんやおばあ

最優秀賞受賞研究

さんを食べてしまうというストーリーでしたが、この作品ではオオカミが赤ずきんに恋をしてしまいます。

音楽と動きを合わせる事により、ミュージカルのような演出に仕上げ、セリフもオオカミの語る英語のナレーションに代え、ファンタジーあふれるストーリーとしました。

二作品とも元にした題材は同じですが、全く違う方向性の新しい作品となりました。